

興陽史上初の快挙！！関東大会出場へ！

7月14日（木）平成28年度群馬県学校農業クラブ連盟各種発表大会が富岡市で開催され、興陽高校は「プロジェクト発表会」において、3分野中2分野で最優秀賞を受賞、「意見発表会」では1分野で優秀賞を受賞しました。

この大会は、関東大会、全国大会へとつながる大会であり、いわば農業関係高校のインターハイ予選。特にプロジェクト発表会は、何年もかけたハイレベルの研究を発表する場であり、農業関係高校がしのぎを削る分野です。

興陽高校がプロジェクト発表会で最優秀賞を獲得するのは佐波農時代の1970年以來46年ぶり、2分野の最優秀賞獲得は興陽史上初、加えて総合学科高校が専門高校（勢多農、利根実、大泉）を抑えての受賞という、まさに歴史的快挙となりました。興陽ならではの生徒と先生の強い絆が今回の受賞につながったのだと思います。

関東大会は、8月24、25日には静岡県沼津市で開催されます。群馬県代表として、歴史に新たな1ページを記せるように全力で頑張ってきてほしいと思います。

大会結果

プロジェクト発表会

Ⅱ類 廃棄ニンジン等の未利用資源を用いたエリンギ栽培

最優秀賞 植物バイオ研究部

Ⅲ類 「食品ロス」を「地域資源」に～規格外野菜を活用した粉食文化の継承～

最優秀賞 食品科学研究部

意見発表会

Ⅱ類 規格外野菜のリサイクル ～食品ロスゼロエミッションへの挑戦～

優秀賞 3年 井上 和奏さん



プロジェクト発表会 Ⅱ類 植物バイオ研究部



プロジェクト発表会Ⅲ類 食品科学研究部



意見発表会 井上和奏さん

プロジェクト発表会発表要旨

I 類 下植木ネギパウダー ～知名度と保存性～ 植物科学研究部

伊勢崎興陽高校植物科学研究部では、地域の伝統野菜である下植木ネギの保存と普及を目的として、植木ネギ保存会の方々に協力をしていただき、活動をしています。しかし、下植木ネギは過去に伊勢崎市の中でも限定された地区の中で栽培、取引されていたため、伊勢崎市民の中でも知名度が低く、更に冬の限定された農産物であるが故に保存期間が限られたものになってしまっています。そこで、物科学研究部では、下植木ネギを未来に残すための普及活動、知名度向上を図るための数多くの活動を行ってきました。そして、保存期間をより長くするために、ネギパウダーの製作にも着手しました。今回は、現在の取組状況と成果について発表します。

II 類 廃棄ニンジン等の未利用資源を用いたエリンギ栽培 植物バイオ研究部

私たち植物バイオ研究部は、未利用資源の有効活用に関する研究を継続的に行っています。特に近年は、廃棄野菜の活用を研究主題においた取組を行っています。この廃棄野菜は、カット野菜工場などから排出される非可食部の野菜で、腐敗しやすいことから、環境負荷の高い廃棄物として捉えられています。私たちは、これを、きのこ栽培に用いることができないかと考え、研究を進めています。

III 類 「食品ロス」を「地域資源」に ～規格外野菜を活用した粉食文化の継承～

食べられるのに廃棄されてしまう食品ロスは年間約800万トンと言われ、そのうち規格外を理由に廃棄される野菜は140万トンを占めています。今まで食品科学研究部では、桑の葉をパウダーに加工し、焼き菓子に入れることによる商品開発と地域交流を

行ってきました。今年度はその技術を応用し、規格外野菜に用いて食品ロスを減らす取組を行っています。実施した活動は商品開発及び野菜の選定、ビジネスプランの立案、地域への還元の三つの取組です。商品開発及び選定では、加工特性やアンケートを通しての野菜選定を行い、試行錯誤を重ねました。また、私たちは民間企業主催のビジネススクールに参加し、商業・工業高校の生徒とともに地域特性を活かしたビジネスプランを立てました。そうしてでき上がった計画を基に開発した商品を、イベントを通して地域に還元しています。これから、食品ロスを地域資源に変えていく、私たちの取組を発表します。

意見発表会発表要旨

I 類 私の故郷「熊本」 満島 琴里

私は、高校2年の春に、熊本から群馬に引っ越してきました。現在、伊勢崎興陽高校で学んでいますが、その最中に起こったのが「熊本地震」です。現地には私の友人や思い出の場所などが多くあります。そんな故郷に対して私ができることは何だろうと考えました。

II 類 規格外野菜のリサイクル ～食品ロスゼロエミッションへの小さな一歩～

井上 和奏

伊勢崎市の農家さんとの交流活動で、1人では持ちきれないほどの形の悪い野菜を頂いた。その時に、形が悪いという理由で捨てられてしまう廃棄野菜がたくさん出ることを知った。そこで、私なりにできる廃棄野菜のリサイクルについて考え、パウダーに活用し、商品化に取り組んだ。今後も規格外野菜のパウダー化や乾燥野菜の活用に取り組み、私の作った商品を手に取ってくれた人から人へ、食品ロスを考えてもらうきっかけになるよう努めていきたい。

III 類 本音 ～介護を必要とする人たち～ 向井 やや

今年の大雪で大けがをして気が付いたこと。実習先の利用者さんから教えられたこと。その方の人生を支えられる介護とは。高齢になり介護を必要とする方たちの本音はどんなことなんだろう。どんな介護をすることが正解なんだろう。